

# 2005 年度夏期 プログラムプランニング 参加者作成プログラム

## 1. 塚本昌孝会員、井上咲子会員、若井俊宏会員、尾上夏子会員、萩原踊介会員、 小笠原亜奈会員

### (1) タイトル

地元住民の手による農村開発プログラム

### (2) 背景

2005 年 8 月 9 日～22 日の期間 Phitsanulok 県 Klongnamyen 村にてメンバーが調査活動を行ったが、調査活動に関して素人の我々がわずかなこの期間調べただけでも村には土壌の劣化、健康への被害、水質汚染など様々な問題が生じていることがわかった。その問題は農業の実際の活動に関わるものだけではなく、村の生活の中で習慣化されてしまっているものもある。短期的な利益を求めた結果、長期的にみて村にとって何が良く、何が悪いのかに目を向けない村民が多いなど根本的な部分からの改善が必要なこともわかった。さらに、住民を対象に行った調査の中でも、自分たちの村について、例えば環境など、興味の高いことが伺えた。そして、ERECON の活動にも興味を持っている人や活動に感謝している人さえいることがわかった。だが、反対に ERECON が活動することによって、村が変化していくことに不安を抱いている住民もいた。そこで、ERECON の活動を理解してもらいより効果的に普及させるためには地元の専門家による指摘を受けたほうがより住民に浸透しやすいという結論に至った。我々も同じで、異国、異文化の者たちから指導を受けるよりも、土地をより理解している者からのほうがわだかまりも少なく、受け入れが容易であるからだ。村では実害もすでに出始めているので(例：斜視、土壌の疲弊)、問題が深刻化し、取り返しのつかない状態になる前に早期改善が求められると判断し今回のプログラムを立案した。

### (3) 目的

- ① 農村住民の意識改革を促す：PP メンバーが調査しただけでも住民が化学肥料を使用することによって起こる弊害について認識していない人がいることが明らかになった。また、住民にとって決してよいとはいえない現在の状態を向上しようとする人が少ない。住民一人一人に考えてもらえるような結果を出す。
- ② 大学の知識を村落へフィードバックする：専門的な知識を有する学生が、大学で習ったことを実践する場として活用し、また農業に関して専門的な知識を農村部へ普及させる。さらに高校卒業後、都市部へ移り住んでしまう若者が多い(実際村には 20 代の若者が非常に少ない)ので、この調査を通して若者に農村開発という分野に興味を持ってもら

い、過疎化を止める効果にも期待をする。

- ③ 農業に関して農村民が抱えている問題について専門的にコンサルタント(相談)を設置する：農業をする過程で、問題が起こっても村には専門家がないので相談をすることができないという悩みを抱えている住民もいる。その悩みに対して専門家が取り組むことで、農民の生産活動を向上させ、最終的に自立できることを目指す。農業に関して村の中でリーダーを作る。

#### (4) 実施方法

地元ナレスワン大学と提携して環境調査〔水質(川・飲料水・用水路・地下水・雨水)・土壌・空気・ゴミ処理問題〕、残留農薬などの分析(作物、魚などに有害物質がどの程度含まれているのか)を行う。また、同時に住民の健康診断もあわせて行う。調査結果を基に、大学の修士以上の学生、または卒業研究を控えた学部生の研究チームが農村地域で農業コンサルタント(相談役)として活動する。活動の最終段階では、自立のために、作物を生産するだけでなく、加工・流通を視野に入れた「売るための農業」という意識改革を促す。

#### (5) 実施スケジュール

一年目：専門家チームを作り、調査対象の村へ派遣する。チームのメンバーは主に農学系学部の学生と医学系の学生。調査チームは村に入り調査を行う。土壌、肥料、水、空気、健康状態、収穫作物の種類、収入、などを一年かけて徹底的に調査する。

二年目：一年目の調査結果を基に農業技術の向上や環境改善のための農業へ転換することを実際に村人と一緒に生産活動をすることで教える。また、農業に関する問題解決のためのコンサルティングをする。農業経営のノウハウも教える。

三年目以降：二年目以降にある程度の成果がみられた場合、村だけで自立をできるよう経営技術も教えていく。生産活動だけではなく、加工技術やマーケティングなど経営に必要な能力を身に付けさせる。最終的には村の中に農業に関するリーダーを作り、その人物を中心に自立を目指す。活動終了後もリーダーを中心に大学側と連絡を取り合うなどして、大学側はその後の学生のために、村側はさらによい方向へ向かえるように活動を継続していく。

#### (6) 期待できる効果

活動の成果が得られた場合、このような活動を他の周辺地域にも広げていくべきである。Klongnamyen 村以外に訪問した村でも、調査、改善の必要な村は多くみられる。また、上記の村以上に問題(貧困など)が浮き彫りになっている村もある。一つの成果に満足せず、視野を広げて継続的に根気強くやっていくことがこの活動には必要である。

以上